中部大学文芸研究会規約

制定 1990（平成2）年4月1日

（名称）

第1条 本団体は中部大学文芸研究会と称する

（目的）

第2条 当団体は、小説・詩歌など文芸作品の鑑賞およびその創作活動を通じ、豊かな人間形成と感性の成長を目的とする。

（活動）

第3条 「中部大学クラブに関する規程」に則り、活動を行う。

第4条 当団体は第2条の目的達成のために、次の活動を行う。

1. 文芸作品の発表、それに伴う討論会。
2. 部誌の製作
3. 作品投稿などの外部活動
4. その他目的達成に通ずる活動

（組織構成）

第5条 本団体は、中部大学の学生を構成員（以下部員とする。）として組織する。

（役員）

第6条 本団体には、部長、副部長及び会計を置く。また必要がある場合は、その他役員を置くこととする。

（顧問）

第7条 文芸研究会に顧問を置く。顧問は中部大学の教職員をもって充て、学長が任命する。また、その任期は特に定めない

（会計）

第8条 部員は活動のために、部費を納めるものとする。金額は別に定める。

第9条 会計年度は原則、4月から翌年の3月までとし、年に一度、部員に会計報告を行い、承認を得るものとする。

（入部及び退部）

第10条 入部希望者は、部長にその旨を伝え、会則や規則等の説明を受け、入部届けに必要な情報を記載すること

第 11 条 退部を希望する部員は、部長に承認を得て、退部すること

第 12 条 第 8 条において、部長は退部を希望する部員に対し、速やかに退部手続きを行うものとする。また、役員であるものは、必ず公認を選出し、そのものに引き継ぎを行った後で、退部を認める。

(規約の変更)

第 13 条 規約の変更は、役員の会議をへた後、部員の承認を得るものとする。

(事故防止の義務)

第 14 条 文芸研究会の構成員全てが事故を未然に防ぐ能力を取得し、常に事故を防ぐための最善の努力をしなければならない。万一、不測の事態が発生した場合、人命救助を最優先とする。

(罰則等)

第 15 条 部員が、以下の行為を行った場合、その程度により、注意喚起しまた、退部を促すことがある。

- (1) 第 2 条の目的から外れた活動を行った時
- (2) 役員が、職務を遂行しなかったとき
- (3) 第 8 条に定める部費を納めなかったとき
- (4) 本団体の活動を著しく妨害したとき
- (5) 学生が本学の定める諸規則に違反し、また学生としての本文に反する行為があったとき

(規約以外の規則)

第 16 条 団体で規則以外の規則を定めることができる。

附則

本規約は、1990 年 4 月 1 日から施行する。

附則

本規約は、2025 年 4 月 1 日から施行する。